



津波はどのくらい遠くまで、伝わっていくの

1万7000キロメートル以上も、はなれた所まで伝わった

海底で地震が起こると、海底の地形が急に变化して、海水が大きくおし上げられたり、しずんだりするために、津波が発生します。また、海底火山の噴火によっても、津波が発生することがあります。

津波の速さは、とても速く、時速数百キロメートルといわれています。波の高さは、水深が浅くなるにつれて、高くなります。浅い海岸やわん内に入ると、数十メートルの高さになるときもあります。

日本にきた津波の中で、いちばん遠くからきたのは、1960年に、南アメリカのチリ沖で起こった、地震による津波です。この津波は、太平洋をこえて、1万7000キロメートル以上もはなれた日本に、おしよせてきました。このとき、日本で亡くなったり、行くえ不明の人が142人いました。

「明治三陸地震津波」では、30分後に大津波がおしよせた

1896年、東北地方の三陸海岸から、200キロメートル沖で、マグニチュード(地震のエネルギーの大きさを表す)8以上の、巨大地震が起こりました。陸上では、小さなゆれを感じただけですが、30分後に大津波がおしよせてきて、2万1959人が亡くなりました。この津波は、「明治三陸地震津波」とよばれています。(監修・国司 真)

